

平成30年10月11日（木）午後2時

苫小牧市立中央図書館2階講堂

事務局 それではここから議事の進行となります。これより松井会長に議事をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

議長 それでは、第四次苫小牧市子ども読書活動推進計画案について、事務局から説明をお願いします。

<以下、生涯学習課より資料に基づいて説明>

議長 それでは、質問や意見をいただきたいと思います。資料1の第1章と第2章について質問、意見があればお願いします。1ページの「2 計画策定の背景と趣旨」の中に、学校の話が掲載されていて、「学校における読書活動の推進に向け、学校司書を小学校全校に配置しました。」と書いてあります。私は6年間、苫小牧を離れていましたが、6年前には学校司書はいなかった。学校司書が配置されて小学校の図書室は、今年戻ってきて6年前に比べると非常に良くなったなと思いました。私は10年前まで中学校に居ました。中学校は10年前も今もあまり変わっていません。小学校は充実されてきたんで、中学校の方にもというのはあるかなと思っていました。市教委の学校教育課でも、中学校の方は課題があると言っています。3ページの「子どもの読書活動の現況」の3行目「依然として学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向にあります。」と書いてあります。この計画の肝になると思っています。次は中学校としたいです。この段落の最後に「中学校においては若干の改善が見られます。」と書いてあるが、改善といってもちょっとですよね。3%。中学校が課題だということは分かります。

事務局 中学生になると、部活動や受験があって、どうしても読書離れという傾向は出てくる。しかも、中学生になると学校の図書室に行く機会が減ってしまって、本を読む機会も減ってくるという傾向はあります。それは、学校の図書館が魅力がないということもあるかもしれませんので、そこは小学校と同じように中学校にも司書の配置というのを市教委として考えているところです。それに伴ってどういう効果がでてくるのかは、配置しからの検証になると思います。せっかく小学生の段階で本を読むようになったのに、中学生になって読まないようになるのはもったいない話なので、なんとか解決する手段を市教委でも考えています。

委員 最近、小学校の図書館を見る機会があって驚きました。子どもが興味を持つような飾りつけや時季的なものも入っていて、司書の頑張りが見えました。休憩時間には図書委員

が来て、何人か子どもが居るのが見えました。暖かみや司書の個性や頑張りが見えました。学校司書はとてもいいことだと思う。ただ、毎日居るわけじゃなく日数が少ないので、せめて1日おきくらいに居たらいいと思います。是非増やして欲しいと思います。

委員 学校司書の配置状況はどのくらいなのでしょう。

事務局 学校司書は現在11人。小学校は24校ありますが、1校あたり1～2回。1日6時間勤務になっています。

委員 中学校はゼロで、これからやっていきたいということですね。

事務局 小学校の子ども達の読書離れも減ってきていて、中学校も魅力ある学校図書館になれば子ども達も足を運ぶようになると思いますので、そこは検討していきたいと思います。

委員 ということは、今後、1人で数校じゃなくて、1人1校ということになって、回数も増やしていきたいということですか。

事務局 今のは、中学校の話です。

委員 小学校はこのままで、中学校にも週1～2回入る司書をやっていくということですか。

事務局 中学校全部をいきなりということは難しいかもしれませんが、司書を雇用して中学校でも週何回か入れる体制づくりをできたらと考えています。

委員 ここしばらくは、小学校の状態を中学校に持っていて、それが終わってから小学校の司書の日数が増えるという考えなんですね。

事務局 とりあえず、小学校は週2回全校をカバーできたので、次の段階になるかもしれません。

委員 聞いた話では、学校司書も自分のやりたいことが、週2回では十分にできないということやもっと積極的に関わっていきたいという話もあったので聞いてみました。

事務局 そうですね。理想は1校1人の配置がベストかなと思っています。ようやく今、巡回する形で全校に配置できたので、次の段階で司書の配置をどう増やしていくか考えることになるかと思っています。

委員 例えば、今のお話でも、5年後にどういう姿になっていけばいいのかということを考えて時に、皆さんの興味がある学校司書がどうなっているのかを目標にした方が、私はいいと思います。結局、取り組んでいくということはプラスになっていくと思うんですけど

れども、最後にどこを目指して進んでいるのかは、数値目標だったり、ここら辺を狙っているということをみんなが理解をして、それはいいですね。それだと足りないという進め方の方が5年だとか長いレンジの計画であれば、よりいいのではないかと思います。取り組むということより、どのくらいを目指すということを書いてある方がいいのかなと感じました。

事務局 それで第三次の時は、数値的な目標は1つもなかったんですが、今お話がありましたとおり、色々な数値の目標を持てれば内容的にも充実してくるかなと思うんですが、まず今回は、本を読んでいない方がいるので、読んで欲しいといったところの目標を掲げるというのと、多くの本を読んで欲しいといったところを、今回数値的な目標を持って、やっていきたい。今お話のあった学校司書の話もありました。部長の話にもあった中学校への拡大といったところも、市教委的にはっきりやるといったところもまとまっていないものですから、数値的に中々言えないものですから、目標的に立てるのが難しいということで今回、可能な範囲で数値目標を立てさせていただいて、第四次の中でどれだけ到達できるのかということを検証していきたいと思っています。今後、どれだけ数値目標を立てていけるのかということも1つの目標ですので、そこら辺もご理解いただけたらと思っています。

委員 今の数値目標なんですが、図書の読む数値を上げていくかというための手段としての学校司書だと思っていますので、学校司書の目標を持つことで全体的に読書が活発になっていくということがイコールのような気がしていたので、できれば今後計画を立てるときは、学校司書もできるだけ何年度までにここまで持っていくという形を示していただけると分かりやすいと思います。

委員 そこまで言っている訳ではないんですけども、ここに書いているのは結局、1人何冊読んで欲しいとかということで、それは最終的な結果であって、その結果を得るために何をどうするのかという目標があるといいんだろうなという気がしているんじゃないかなと自分は思いました。

事務局 分かりました。そこの部分も表記できれば一番いいんですが、まだ市教委としての方針が固まっていないものですから、四次計画には載せることはできませんでしたが、市教委としてはそういう考えを持ちたいということをご理解いただければと思います。

議長 学校司書の話がでてきましたけれども、市教委としても拡充に取り組むとおっしゃっていますので、それがどれくらいになるかを私たちも見ていきたいと思っています。そして、4ページ5ページは社会教育委員会議でこういう意見を貰いましたということで、これらを元にして6ページからの方策に入ってきています。先ほどの説明にもありましたが、まず構成が3つから2つにしたという話がありましたが、北海道に合わせたということもありましたのでスッキリしていいのかなと思います。基本目標1の推進方策1・2(家

庭・地域) についてどうでしょうか。

委員 保育園では、本の読み聞かせは日常の保育の中で毎日行っていて、その大切さを保護者に伝えるために、園の本の貸出しも行っています。まだ保育園なので読み聞かせが中心で、自分で読むということはまだ難しいのですが、1か月に数十冊を用意して1人2日間貸出しています。そういう中で保育園もいいけど、図書館にもあるんだよとか、家読のパンフレットも配ったりしているんですけども、図書館に足を向けるということが、行ったらうるさくしちゃうから行けないという声がお母さん方から出るんです。出光カルチャーパークやサンガーデンには行くけど、図書館は静かにしないといけない所が入りづらい。やっぱり保育園は幼稚園と違って仕事をしている方が多いので、中々行けないと聞いているものですから、本を読むとか買うとか、こんな本があるという子ども本の案内をしても、買うのは難しいということで、ここに何か小さい子ども達が来やすい図書館ということがあるといいと思います。もう少し今後計画の中で何かあったらうれしいと思います。0歳児に本を配るというのがありましたよね。あれも結構来ていないと思うんですけども、普及率はどうなんでしょうか。

事務局 0歳児に絵本を渡すブックスタートということで、実績としましては83%ほど渡しているんで、ほぼ全ての方にお渡しはできているのかなと思います。

委員 それは、今後年齢を上げていくという計画は考えていないんですよね。

事務局 今のところ、27年度から始めた事業で2年間経過したところなんですけど、初年度が83%で2年目が85%と、若干お渡しできる確率も上がってきているところです。次の年代というところもあるんですけど、まだ始まったばかりの事業ですから、まずは0歳児の方々に本をということで、最初は1冊だったところも3冊から2冊をお渡しするというので、冊数も増やしながら、小さいお子さんに本をお渡しして、家でうちどくとして利用してもらおう。本来的には本をお渡しするときに読み聞かせもできればいいんですけども、時間的な都合とかもありますので、家でこういう風に読んでくださいということと、市内のこういうところで読み聞かせをしていますということ、うちどくの大切さのチラシもお渡ししている状況です。まだ、次の段階というより今の85%を上げていくということに注力したいと考えています。

議長 0歳児に85%。この資料が学校関係の資料ばかりだったので、学校に入る前の状況が分からないなと思っていました。

事務局 資料の8ページにあるブックスタート事業というのが、今私が説明した「赤ちゃん、絵本のとびら事業」になります。第三次計画では、大きい項目でうたっていないくて、小さい取組の方に書いていたんですが、より力を入れるということで、大きい項目にさせていただきました。徐々に数字を上げていきたいと思います。

委員 家で本をどういう風に読んであげているかは分からないですが、読み聞かせが大事なことは常に色々な機会に言っていますので、子ども達の好きな本を何回も読むことで、保育の生活の中で1冊の本で発展させるということもやっています。じゃあそれを家でとなると難しいと思いますが、図書館にはたくさん本があるので行ってみたらとは伝えていますが、うるさくしたら・・・という気持ちが強い人もいるのが現実です。

議長 私、豊川コミセンにも行くんですけども、中央図書館より結構キャッキャッキャやっていますね。そういう雰囲気はコミセンの方があるかもしれませんね。

委員 私も委員になったので、ちょっとお母さん達に聞いてみたんですね。そうしたらそのようなことを言っていました。

館長 図書館としては、先生もおっしゃってくださったとおり0歳児から使えますよとか、赤ちゃんと楽しむ絵本ひろばもありますので、気になる方には申し出てもらえればこちらも使用できますので、そういうこともお話いただけたらと思います。

委員 それに関連しまして、12ページの方に市立図書館の整備・充実というところで、現状と課題の中に移動図書館のことで市内26か所、保育園等9か所と載っていますが、これは全部の保育園を回ることはできないんでしょうか。

事務局 これは移動図書館車が複数台あればもっと回れるんですが、現在は寄贈を受けた1台のみになります。中々全ての保育園を回るということは難しいですね。現状では中々難しいです。

委員 1台しかないんですね。

議長 8から9ページはどうでしょう。地域の取組についてはどうでしょうか。ここで思ったのが9ページの「4 子どもの読書活動に関する地域住民や保護者への普及・啓発」なんですけど、保護者へは学校からもできるんですが、地域住民というところでは、今年からコミュニティスクールというのが勇払小中学校で試験的に始まりました。来年は、清水小、開成中で始まる話があるんで、その取組ができれば、これが子ども読書の課題ということで、地域の方も一緒にということでケアできると思っていました。子どもの読書の様子は中々地域の方には分かりづらいと思うので、そういう部分では中央図書館とともに学校にもそういう役割があるなと思っていました。それでは、10から11ページはどうでしょうか。

委員 朝読書の中学校の15分の14が非常に気になるんですが、どうしてでしょうか。

事務局 残り1校は山なみ分校でして、どうしても一斉に読書をというところが難しいと聞いて

ております。なので、通常の学校では100%となっています。

委員 この計画のことではないんですが、質問です。朝読書の取組状況なんですが、これは毎日行っているんですか。

事務局 中学校については毎日行われています。小学校については毎日行っている学校や週2回等のばらつきがあります。朝読書ということで苫小牧市では進めていますけれども、全国的には朝読書ではなく、朝以外の時間に行っている割合が多くなってきているので、「朝読書等」とさせていただきました。

議長 苫小牧では朝以外の時間にやっている学校は現在ありませんが、これからのことも考えて朝読書等と変更したということですね。続いて12ページはどうでしょうか。

委員 ここの市立図書館の整備・充実と言ったときに具体的に行うことは、13ページにある図書館の機能の充実だったりするわけなんですけれども、その1項目、1項目に対してどこまでやるのかというのが、どこに書いてあるんですか。例えば、これを受けてさらに目標を作るのか、この中のどこかに書いてあるんですか。全てを数値目標にできるとは思わないんですが、どこまでやるのかが、分かりづらい。推進と書いてあると分かりづらいことが多いんですけれども。

事務局 目標の作りかたとしてはどこまでやるのかは、確かにお示ししていない形になっております。ただ、年1回なんですけど、子ども読書活動推進連絡会議というのを関係部署が集まって、情報共有を行っています。それを元に、巻末資料になりますけれども、自分たちの自己評価を行って、そこでの課題も踏まえて次の計画策定に繋げていくという形に現状ではなるのかなと考えております。

委員 例えば、具体的に言うと、「インターネットを活用した検索機能や予約の活用の促進」というのが5年後にどこまで完成しているのか。何ができたか○なのか×なのか分かりづらい。この項目が書いてあることに反対する人はほとんどいなくて、ただ、それをどこまでやるのかに対しては、やりすぎだとか足りないという意見が出てくると思うんですね。そこがはっきりしないのですっきりしないところなんですよね。関係者の会議も1年間の報告であって、目標に対して何かをというようにはなっていないと感じているので、もうちょっとはっきりするような目標があるのが望ましいと思います。数値目標は17ページのところだけですよね。大切な目標だとは思いますが、結果の目標なんで何をやったからそれができたというところを考えると、もうちょっと具体的にしておいた方がいいと思います。

事務局 確かにこれが基本計画で、この下に実施計画があるですとか、そういう具体的施策が載ってくればより分かりやすいのかなと思いますが、この計画の中では、こういった

ことを取り組んでいきますというところまでで、具体的施策を載せるといった計画になっていませんので、今後、計画を策定する際に検討させていただければと思います。

議長 14から15ページはどうでしょうか。さっき、学校司書の配置の話もあったんですが、今度は学校司書の研修というのも大切になってきますので、現在1回開催なんですけど、今後複数回になったり、回数の記載があったりしたらいいなと思います。後は、学校司書の皆さんが集まって、色々なことを話せる機会がいずれできればいいなと思っています。蔵書冊数ですが、トヨタ自動車北海道さんから毎年、数校ずつ本の寄贈をいただいている、今年は清水小学校に順番がまいりまして感謝しています。ありがとうございます。16から17ページはいかがでしょうか。子ども読書活動推進連絡会議はいつ行われているのでしょうか。

事務局 例年1月の末頃開催しています。後ほど御連絡する予定でしたが、図書館協議会委員の皆様にもご出席いただきたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

議長 今回新しく目標指標を作ったということですが、北海道の方はたくさん目標指標があるんですね。今回、苫小牧市は初めてということで、数を絞ってこの2つにしましたということでした。読書については、10分以上本を読むですとか、本を読まない子を減らすとか色々あると思うんですが、この本を読まない子どもを減らすということはとてもいいと思います。ただ、課題は中学校だと思うんですが、読まない子が3割以上いるけど、5年後は3割ちょっとにするとか、本の貸出冊数も2.2冊を3.2冊というのもそんな小さい数字でいいのかなと思うんですがどうでしょうか。もっと伸ばしたいと思うんですが。

委員 数字の話になったので述べさせていただきますと、今、松井先生がおっしゃったように私も同じように感じているんです。ブックスタートに関しても、5%増やしていけたらとかそういう話じゃないと思うんです。ブックスタートの目標は100%と書いてほしいと思っています。なぜ、15%の父兄の方が取りに来てくれないのか考えて欲しいと話させていただいたことがあったんですよね。来られない状況が何かあると思うんです。今のブックスタートは取りに来ないといけない。努力されているのは知っているのですが心苦しい部分もあるんですが、取りに来ない人に渡す方法はないのか。その辺を考えられたらいいと思います。何%上げるという数値目標もいいと思うんです。達成しなかった時に原因は何かという探り方もいいと思うんですが、数値にこだわらず何故できなかったかを、もっと大事に考えていきたいと思っています。

議長 ブックスタート100%と書いて書くとまずいですかね。

事務局 恵庭市は検診会場1か所でやっているものですから、必ずそこに行けば会えるというのがあるので100%に近づくというのがあると思うんですが、苫小牧の検診は市内

の医療機関全部になりますので、そこに出向くだけの職員もいませんので、最初はコミセンとかに取りに来てくださいということだったんですが、今はBCGの会場に我々が出向いてお渡しするという方法をとって、数字が上がってきているというのがあるんですが、後は市内で生まれて1歳未満の子どもも分からないわけではないので、そこに出向いていけるかどうかという体制作りだったりがあるんですけども、そこも難しくて今の状況を保ちながら、少しずつお母さん達と会える機会を増やしていきたいと探しているところです。だから、目標として100%を掲げられないのかということであれば、目標ですから掲げられないということではないんですけども、現状85%を徐々に100%に近づけて行きたいというのが現状ということでご理解いただきたいと思います。

委員 例えば、保健師さんとタイアップするとか、教育委員会以外と連携するとかそういうことができたらいいなと思いました。よろしくお願いします。

委員 質問ですが、15ページに1校あたりの蔵書冊数とあるんですが、29年度の冊数ですけども、学校規模にもよるんで一概には言えないと思うんですが、多い少ないってどれくらいあるんですか。後は1人あたり何冊くらいあるのか気になったんですが。

事務局 ちょっと今、手元には1人当たりの貸出数しかありません。

委員 1校当たりの蔵書冊数は増えているんですが、学校規模による違いもあるんで分かりづらいと思いました。

委員 学校によっては古い本をとってあるから冊数はあるとか、新しい学校だと冊数はないけど新しい本が並んでいるから、これだと足を運びたくなるよなとかありますよね。

委員 17年前に小学校で図書ボランティアに参加させていただいたんですが、当時の図書館は触ったら埃がでるような本がずらっと並んでいる図書館だったんですが、今は学校司書が専門的な知識をもって入っていただけていいなと思うんですが、今でもお母さん方の中にも何でも手伝いますという方もいらっしゃいますので、そういう方の手も借りながら、一緒に協力してやってもらえたらいいと思います。

委員 計画とは関係ないんですがいいですか。さっきの小さいお子さんが、うるさいのを気にして来られないとかは、例えば、うるさくしてもいい日とかうるさくしてもいい時間を作るとかできないんでしょうか。例えば、クラシックの音楽会でも今日は騒いでもいい音楽会だよというとお母さん達も来やすくて、それも結構楽しくできるんで、そこは皆さんの理解が得られるか分からないんですけども、そういうのも折角民間がやっているのでやわらかい頭でいいかなと思います。



委員 読書といっても、ただ本を読むとか読み聞かせだけではなくて、図書館という機能を持った施設で学ばなければならないこともあると思うんです。図書や図書館を通して子ども達に学んで欲しいことって読むことだけではないかなと思うので、騒いだらいけない場所ということを教えることも大事だし、色々な人が来ての図書館なので、子ども連れの人にも居やすい図書館でありつつ、目的を持ってこられる市民にも居やすい図書館であって欲しいと思います。図書を通じて色々な角度で社会を見れるようになればいいと思います。

議長 新聞については、どういう扱いになっているんでしょうか。北海道の計画にはあるんですが。

事務局 新聞という観点からは作ってなくて、媒体として読書というくくりで本を読むという事で作っているので新聞という考えは持っていませんでした。

議長 文科省が作った学校図書館ガイドラインの中には選挙年齢の引下げになったことに伴って、今の様子を知るために新聞も大切だから学校図書館にも新聞を入れなさいというのがあったものですから、聞いてみました。読書ではないですが、字を読むということは一緒ですのでどうだったのかなと思いましたが、今後の課題ということでお願いします。

委員 議題とはちょっと外れますが、今度の土曜日に絵本作家の講演会がありますね。ああいった事業は今までも行っていたんでしょうか。

館長 絵本作家を招いての講演会は毎年行っています。それ以外にも絵本の原画展を、今年はお縁があって2回開催予定です。ぜひお越しいただければと思います。

議長 それでは本日の議事を終了します。進行を事務局にお返しします。

司会 それでは次第の4、その他について事務局からお願いします。

事務局 事務局から、次回の会議についてお知らせいたします。次回は1月に、子ども読書活動推進会議の開催がありますので、12月にご案内を送付します。よろしくお願いたします。

事務局 それでは以上で本日の会議を終了いたします。ご出席いただきありがとうございます。

閉会 < 午後3時40分 >

<出席者>

○委員

松井 操人 会長

深澤 治稔 副会長

一谷 誠子 委員

地白 佳代子 委員

橋本 久美子 委員

原口 祐子 委員

<欠席者>

○委員

伊藤 博之 委員

鈴木 一恵 委員

辻 直人 委員

三上 剛 委員

○事務局

教育部 部長

生涯学習課 課長

同 主幹

同 主任主事

同 主事

中央図書館 館長

同 副館長

以上